

信頼性が高いと言われる 5速ATにトラブル発生!!



信頼性が高まった電子制御式5速ATだが、ここきてトラブルが出始めているらしい。情報源はセントラルオートで、編集部へ届いた写真を見ると想像以上にひどい症状だった。その現状を聞くべく本誌取材班は現場へと急行した!



ディスクは剥離してしまい AT内部はサビが進行していた!

ラジエターの冷却水がATに混入していた

「W211のATをオーバーホールしてるんだけど見にくい?」と見玉氏から編集部へ電話がきた。

「へえ、まだ新しいのに。W211でも壊れるんですね」と、わりに呑気に答えた担当編集だったが、メールで送られてきた写真を見て驚いた。

オーバーホールの現場はこれまでたくさん取材しているし、ひどいものも見てきたが、それは古いクルマでかつATの扱いが悪いものばかりだった。しかし今回は現行型のEクラスだ。早速、東京都足立区にあるセン

トラルオートへと向かい、症状について聞いてみると「エンジンはかかるけどギアが繋がらないということが入庫してもらったんだ。で、ATをバラしてみたら、ディスクは剥離してしまっポロポロ、剥がれた摩材はバルブボディにベッタリ。トルクコンバーターやプラネタリーギアはサビだらけだったよ」とのこと。

このトラブルの原因となったのが、どういわけかラジエターの冷却水がATに混入してしまったこと。また剥がれた摩材がストレーナーを詰まらせ、結果的に油圧の低下を招いたというのが大きな要因だろう。

修理の内容はラジエターの交換ATのフルオーバーホールで45万

55万円以上の高額コース。トラブルの頻度としては決して多いわけでもないとのことだが、突然やってくるATのトラブルはとても心配だ。予防法について見玉氏に聞いてみた。

「このトラブルについて予防はできないのが現状なんだよね。W210の電子制御式ATも後期の最後の方はほとんどトラブルが出なくなったし、W211のAT全体としては信頼性は高いと思うよ」

具体的な対策はないようだが、シフト操作を丁寧に行なうなど、自衛できる部分はやっておくべき。定期的なATF交換も必要だろう。メン

テフリーだからこそ難しい、新世代メルセデスのATトラブルであった。



手前が新品で、奥に見える茶色のプレートが取材車両のもの。焼き付きを起こしてしまいディスクが変色してしまったようだ。



冷却水がATに回ってしまったためサビが進行してしまったプラネタリーギア。見玉氏もここまでひどいとは思わなかったとのこと。

情報提供=セントラルオート



■住所: 東京都足立区南花畑 2-44-4
■TEL: 03-3883-9922
■URL: <http://www.central-auto.net/>

クラシック、角目、新世代メルセデスまで、メルセデスのことなら何でもお任せの修理工場。一般整備からエンジン、ATなどのオーバーホールも得意分野。予算に合わせた的確な修理は、多くのメルセデスユーザーから厚い支持を集めている。



ZOOM UP



剥がれた摩材がバルブボディを含め、AT全体にこびりついてしまっている。こうなってしまうとオーバーホールしか手はない。